

会議議事録

				記録者	林
供覧	部長	課長	課長補佐	主査・係長	G員
件名	第1回龍ヶ崎市最上位計画策定審議会				
年月日	令和3年3月26日(金)				
時間	午後1時15分～午後3時15分				
場所	龍ヶ崎市役所 5階全員協議会室				
出席者	最上位計画策定審議会委員 鈴木 麻里子 委員、谷口 佳菜子 委員、田中 治彦 委員、深澤 泰子 委員 郡司 悦子 委員、中村 友則 委員、櫻井 惇 委員、渡邊 孝 委員 北川 滋也 委員、池永 直子 委員、石引 公子 委員、披田 信一郎 委員 中山市長 事務局 企画課 木村課長、岡野課長補佐、小室主査、記録者				
欠席者	武藤 成一 委員				
情報公開	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 部分公開 <input type="checkbox"/> 非公開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		(龍ヶ崎市情報公開条例第9条 号該当)	
		公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)			
発言者	内容				
	開会 市長あいさつ 委員紹介・事務局紹介 会長選任(鈴木委員選任) 会長あいさつ 副会長選任(田中委員選任) 議事録署名人の指名(鈴木会長、谷口委員、田中副会長)				
鈴木会長	それでは次の議題に入りたいと思います。 次の議題は、龍ヶ崎市最上位計画策定審議会についてでございます。 議題とはなっておりますが、当審議会の概要等の説明となるかと思っておりますので、これにつきましては事務局より説明をよろしく願いいたします。				
事務局	≪事務局より資料に基づき龍ヶ崎市最上位計画策定審議会について説明≫				

鈴木会長	<p>ただいま事務局より当審議会についての説明がありました。これについて、ご質問等ございましたらお願いいたします。</p> <p>(特になし)</p> <p>よろしいでしょうか。それでは、次の議事に入りたいと思います。</p> <p>次は、「次期最上位計画策定について」でございますが、こちらについても事務局よりご説明よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>今ほど、ご説明させていただきました龍ヶ崎市最上位計画策定審議会条例第2条の規定により、中山市長より鈴木会長へ諮問書を提出させていただきたいと思っております。</p>
	<p>《中山市長、諮問書を読み上げ、鈴木会長へ交付》</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>ここで中山市長におかれましては、所用により退席をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
鈴木会長	<p>それでは、次の議題に入りたいと思います。</p> <p>次は「次期最上位計画の策定方針等について」でございます。それでは、事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>《事務局より資料に基づき次期最上位計画の策定基本方針等について説明》</p>
鈴木会長	<p>ただいま事務局より、次期最上位計画の策定方針と現在の最上位計画の第2次ふるさと龍ヶ崎戦略プランについての説明がありました。これらについて、ご意見・ご質問あればお願いいたします。</p> <p>田中委員、お願いいたします。</p>
田中副会長	<p>市民のワークショップということなんですけど、これ、どのような形でされていかれる予定か教えてください。</p>
鈴木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>資料6ページに書いてあります市民ワークショップについてでございます。</p> <p>今回の市民ワークショップではワールドカフェ方式というのを採用して実施したいと考えております。これは多くの人に気軽に参加してもらおう手法として広まりつつあるものと認識しております。本市でもこれまで都市計画マスタープランでありますとか、立地適正化計画でありますとか、そういったプラン作成の際の市民参画の1つとして開催してきた経緯もございます。</p> <p>今回は、事前に実施するまちづくり市民アンケートで無作為に抽出された4,000名の方々にこういうワークショップ開催するので参加いただけませんか、という案内を同封して、そちらで手を挙げていただいた方に参加していただくという形で開催することを考えております。以上です。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>北川委員、お願いいたします。</p>
北川委員	<p>今のワークショップに関連したことなのですが、私も過去の戦略プランでワークショップに参加したことがあるのですが、このワークショップの結果というのは、どの程度までこの戦略プランの方に反映されていくのかなということが1点、私も非常に興味がありますので、私のような審議員の立場で、ワークショップへの参加は難しいと思うのですが、見学というか、傍聴的な参加というのは可能なのかということ2点についてお願いします。</p>

鈴木会長	事務局お願いいたします。
事務局	<p>ワークショップに限ったことでなく、アンケートでありますとか、市民参加の取組全般について言えることなんですけども、プランへの反映という部分では、これまでも例えば重点戦略、重点的に位置付けていく分野の設定でありますとか、キャッチフレーズ的なものにワークショップの成果でありますとか、市民アンケートから得られる施策の重要度、このようなものを活用して、プランに反映させていくということでこれまでも進めておりますので、今回も同様に幅広く市民参加を募って色々意見を集めた上で、プランの方に反映させていきたいと考えております。</p> <p>また、審議会の委員の方の参加については、基本的に先ほど申し上げましたとおり、市民アンケートの対象の方に参加を募ってという形で考えております。ただ、この審議会の皆様にも、いつどこで開催しますというご案内はしたいと思っておりますので、見学などは自由にしていただけるような形で実施していきたいと思っております。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。</p> <p>お願いいたします。</p>
披田委員	<p>披田です。何点か。まず1点、従来と変えて、8年に延ばす、前期4年・後期4年だという、その説明の中で、現在の市長またはこれからの市長が、どうなるかはともかくとしても市長マニフェストということで、市長の任期の4年ということ意識してというご説明がありました。このスケジュール表で見ると、来年の12月までに策定すると、選挙の結果どうなるかは分かりませんが、市長の任期が来年の1月で、12月に選挙があると思います。だからそういう意味では次期の市長が、この中身に関わるのは2年目からだということにした、という理解でよろしいのでしょうか。ということが1点。</p> <p>それから、もう1つ、この最上位計画という自治法上の総合計画の法的根拠がなくなって、そういう意味では法の縛りがないので一番の上位計画ということで最上位計画という、市民的にはちょっと分かりにくい感じなのですが、それを龍ヶ崎では前々回から戦略プランというふうにしてきているんですね。これは、説明をすれば分かるんですけども、ただ従来の総合計画とは相当感じが変わってきていて、総花的なというか、批判なんかもあって、あえて特に龍ヶ崎の場合には、第1期最上位計画を作る時に相当絞り込んで、しかも、5年ということである意味では短期と言えるのかな、見えるところまでやってきた、このことが第3期以降で変わるのかどうか。</p> <p>8年に延ばすということで、ある程度長期性は見れるのかなとは思っていますが、そのあとは幅の問題というか、従来の総合計画、僕なんかある程度いろんな分野っていうのは必要だろうと、単に重点や実行計画とはちょっと違うのではないかという思いを持っているのですが、例えば、福祉の分野などは、子育てについてはそれを重点目標にしているので、それなりに課題があるのですが、それ以外の福祉の分野なんか意外と最上位計画を見ても見えにくいというのが、第1期、第2期にあったかと思うのですが、今回そういう幅を広げるということなどは、策定の考えの中にあるのか否か、それを教えてください。とりあえず、以上です。</p>
鈴木会長	それでは事務局からお願いいたします。
事務局	<p>まず、計画期間の考え方につきましては、これまで過去2回、5年スパンの計画というものを振り返る中で、中長期的な視点を持って取り組むべき施策の位置付けの難しさを感じる部分があったことや、人口減少が予想以上のスピードで進行する状況で、より中期的な見通しを持った上で施策を考えていくといった視点が重要になっていくのではないかとということと、</p>

	<p>あともう1点、先ほど披田委員がおっしゃられたように、市長のマニフェストと合わせるとい部分で合わせていく必要があるんじゃないかという考えからこのような提案をしているところ です。</p> <p>今回、基本的にはサイクルとして、龍ヶ崎市は12月に市長選があるという流れになって いますので、市長選の後、1年後に新たな市長マニフェスト等を反映した新たなプランがスタ ートするというような形です。今回8年計画なのですけれども、そこはそういったことなども踏 まえて、前期4年、後期4年ということにしているところで、市長選挙後に速やかにマニ フェストを最上位計画に反映させるというようなサイクルを構築していきたいと考えておりま す。</p> <p>あと、2点目の構成の部分ですが、これまで戦略的な部分で全施策を網羅するという形を ここ2回ほどとってきてはいなかったのですけれども、これから作る計画についても、基本 的には現行計画と同様な形で、戦略的な視点を重視はしていくのですけれども、人口減少とか 少子化とか、長寿化とか、また、SDGsの推進とか、時代の変化に的確に対応していくため の各分野の基本的な方向性を総合的に示していくという考えで、以前の総合計画でいうと ころの施策の大綱のようなものを示していきたいと考えております。人口減少などで時代が 大きく変わっていく中にあるのは、各分野・各施策の方向性とか、考え方を改めて議論して示 していく必要があるのではないかなという判断の下、このような提案をさせていただいて おります。以上です。</p>
鈴木会長	披田委員お願いします。
披田委員	<p>今の2つ目の方の各分野という意味では今までの1期、2期の計画では、やはり戦略とか 重点を置くことによって、落とされたとまで言えるかは微妙なのですけれども、全ての分野を網 羅ではないと思うのですが、今後も戦略的にその中で重点を置くのだけれど、分野としては 市政の全体問題、例えばちょっと福祉の問題を挙げましたけれども、例えば農業施策である とか、雇用だとか、どこかしらに絡んでいるっていえば絡んでいるのかもしれませんが、そ ういう分野は立てて、その中で、どう戦略的ないし重点的なものをやるかそういうふう に考えると、そういう意味ではそれがあ程度、修正というか第3期では変わってきているとい う理解をしてよろしいですか。</p>
事務局	<p>そうですね、5ページにありますとおり、8年間全体的な市の方針というか、そういうビジ ョンについては8年間、このビジョンに基づいていきます。ただ、披田委員がおっしゃったよ うに、重点的な戦略的にもやっぱり時代の流れでやっていかなければならない政策とか、戦 略的な事業がありますので、その分をこちらの方でメリハリをつけて出していくというよう な形になろうかと思えます。</p> <p>先ほど、ご質問の中で総花的というお話がありましたけれども、総花的というと、全てを意 図もなく並べたという形になろうかと思えますけれども、どちらかというと、網羅的とい うか、漏れがないような計画を作っていきたいと市の取組としてですね、きちんと仕事をして いく、という計画、分かりやすい計画作りをしていくということで考えております。以上 です。</p>
披田委員	<p>分かりました。</p> <p>総花的というのは、僕の方からの案ではなく、やはりそこは従来で言えば総合計画である べきなので市政は360度全体をカバーしているので、それは、やはり全体の中で戦略的 ということも考えるというようにして欲しいと。よろしく申し上げます。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他、ございますでしょうか。</p> <p>中村委員、お願いいたします。</p>

中村委員	<p>中村と申します。よろしくお願ひします。</p> <p>少しちょっと、このような場が初めてということもありまして、そぐわない質問になるかもしれないのですが、このような、最上位計画策定審議会で、資料中6ページですね、各アンケート等をとって素案であったりとか案を定めると、いうところがあるのですが、この素案自体をまとめられるのはどの方々がやられるものなののでしょうか。</p>
鈴木会長	事務局お願ひいたします。
事務局	素案の作成には2つほどパターンがあって、コンサルタントに頼んで素案を作ってもらったパターンと我々事務局で作るというパターンがあるんですけど、今回は我々事務局の方で作るということで考えております。
中村委員	そうなりますと、先ほどのご質問にちょっと被る部分があるのですが、どの部分に重点を置くかというものが、結局事務局側が判断をするということになるのでしょうか。
事務局	色々な市民からの声を聞いて、事務局の方で案を作るのですが、それはこの審議会に諮って皆さんにご意見をいただく中で適宜修正を加えたり、最後に市民懇談会という形で、市民の皆さんに案を示してご意見をいただく機会を設けることを予定しておりますので、決して我々事務局の案がそのまま通っていくわけではなくて、この審議会の委員の皆さんでありますとか、市民の皆さんに色々見ていただきながら、作り上げていくということで考えております。
中村委員	ありがとうございます。一度確認なのですが、その素案を作っていた際に、重点指標として挙がっていない項目も、その時見せていただいた時点で、この項目は挙げるべきだというお話も可能だということですか。
事務局	<p>結論から言うと可能です。</p> <p>今年いっぱいをかけてアンケートや、市民懇談会、ワークショップ、あとは各種団体ヒアリングなどをしながら、最初にご説明しました今の計画の振り返りや反省を踏まえて現況の課題、今龍ヶ崎市が抱えている課題をまとめますので、それもちろんこの策定審議会の皆さんにこういう課題がありますということを示します。</p> <p>その中で「こういう課題も漏れているのではないですか」というご提案をいただいて、それを踏まえながら今度素案を作っていくという形ですので、その場でも言っていただくことも可能ですし、計画の素案ができてからも言っていただくことも可能です。</p>
鈴木会長	ありがとうございます。その他ございますでしょうか。 田中委員、お願ひします。
田中副会長	今の中で、振り返りという言葉がありましたけれども、第2次戦略プランの中間評価というか、最終はまだまだ先になりますけれども、これがないと次のステップには行けないので、どのようにお考えでしょうか。
鈴木会長	事務局よりお願ひいたします。
事務局	新しい最上位計画を作るにあたって、まず我々事務局も一番最初にやる作業が、前計画、今の計画の振り返りということなので、4月からすぐ作業を進めて参ります。その中で、数値目標として定めてあります、KPIの達成状況でありますとか、その達成を目指すために取り組んできた内容でありますとか、そのあたりを振り返りながら、全体の評価というのを行っていきたいということで考えております。その部分をこの審議会の2回目で皆様に報告させ

	<p>ていただいて、色々なご意見をいただければということで考えております。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。 披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>今、お話あったことも絡むのですが、やはり現状と課題の整理というのは極めて大事だと思います。そのことをせつかくでするので策定審議会等が加わりながら問題にしていくと、あとは市民アンケートについては一定の集約が出る時間はあると思うのですが、次が8月で、色んなものをまとめて1回でやろうということであろうと思うのですが、それとは別にちょっとコロナ状況があるのですが、そんなに長い時間ではというようなことの中で、やはり予算もあって、回数はなるべく最小限でしたいというのは理解できるのですが、やはり第2回目の時期だとか、このあたりについて複数回議論をできるようなことというのをやはり検討して欲しいなと思ひまして。これは会長の方にもお願いしたいのですが、従前最近あまりしてないのかも知れませんがやはりきちんとした議論をしていくために正式のこの審議会、予算の裏付けがあるのとは別に研究会という形で少し下駟らしの議論をした上で、正式な確認をしていくというような手法をとったこともあると思いますので、ぜひ、ある程度2、3回やって慣れれば、そういう部分についてはオンラインでということもありうるかもしれませんけれども、いずれにせよ、そう長々とではないけれどもそれを複数回やっていくことをぜひ、ご工夫願いたいと思います。以上です。</p>
鈴木会長	<p>これについては事務局何かございますでしょうか。</p>
事務局	<p>確かにそういう手法をとったこともございますので、状況を見ながら検討して参りたいと思います。</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。そうですね、是非この審議会と別にワークショップであったり、分科会等の意見交換ができるような場所というものは、ウィズコロナの時代ですので、状況を見ながらにはなりますが、是非可能な限りご対応をさせていただきたいなと、議長の方からも、お願い申し上げます。</p> <p>それでは、よろしいでしょうか。時間もございますので、その次の審議の方に移りたいと思います。</p> <p>次は、「まちづくり市民アンケートの内容等について」でございます。こちら事務局からよろしく申し上げます。</p>
事務局	<p>《事務局より資料に基づきまちづくり市民アンケートの内容等について説明》</p>
鈴木会長	<p>ありがとうございます。ただいま事務局より、まちづくり市民アンケートの実施内容・設問の内容等についての説明がございましたが、これらについてご意見・ご質問等がございましたらお願いいたします。</p> <p>披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>1つは今のご説明の中で項目数を減らしたとか、でもこれは新たに付け加えたとかについてはわかるのですが、この全体のアンケート調査の設計については、例えば流通経済大学でご専門の方がいらっしゃるかどうかは分かりませんが、何らかの専門的なコンサルとの相談で全体のバランスは見ていらっしゃるのでしょうか。</p>
鈴木会長	<p>事務局よりお願いいたします。</p>
事務局	<p>アンケート全体の設計については、やはり我々事務局の方でこれまでの流れであり</p>

	<p>ますとか、KPIとしての連続性でありますとか、あとは昨今の話題、次の計画にはこういう施策が入ってくるだろうという予測の元、質問項目を設定しているというような形です。</p>
鈴木会長	<p>披田委員お願いいたします。</p>
披田委員	<p>量が多いということではないのですけれども、必要最小限でどう聞けばいいのかそういう意味でも専門的なチェックを入れるというのはどうかな、ということです。</p> <p>細かいこと言いますと、11段階、問の17、18とか問23、24とかで、数字の11段階のところ、確かに最近こういうのを見る機会はあるのですが、新しい導入ですよ。今回例えば問20などでは、44項目の5段階評価であったり。聞き方によってそれぞれ使い分けしているのかとは思いますが、特に新たに導入された11段階というのは若干戸惑いと、戸惑っても適当な所、極端に両端にはしないし、ただ単なる真ん中ではないし、少し気持ちが表れるというところにメリットがあるのかとは思いますが、この辺のメリット・デメリットを含めた採用や設計についてもう少し詳しく聞かせて欲しいです。</p>
鈴木会長	<p>事務局お願いいたします。</p>
事務局	<p>11段階評価ですね、NPSの評価の部分でございますが、こちらについては評価の仕方というか、最近で言えば、例えば、ネット通販などをすると良くアンケートでこういうものが来るのですけれど、よく使われるのは顧客満足度であるとか、そういったものを判断する際に使われる指標です。</p> <p>ただ、行政で採用するということになったときに、使いやすい部分としては愛着とか、推奨意向とか、そのような部分をとらえるために非常に使いやすい指標だと言われていて、前回、2年前のアンケートでも一部導入をさせていただいて進めてきた部分です。</p> <p>こちらについては大体真ん中より1段上ぐらい、6ぐらいまで書くとそこについての人是非推奨という評価になり、要するにその人達は、そのことについてあまり良く思っていない、外に行った時に、例えば悪口を言うとか、良い評価をしないで人にそれを勧める、「これ良くないよ」というように勧めがちな傾向が示されるのが6ぐらいまで。7、8についてはどちらでもないという評価で、9、10という評価は外に行くといい評価をしてくれ、人にも勧めてくれて、「どこの何は良かったよ、あなたもやってみたらどう？」っていうような評価をしてくれる指標になっていて、これができるだけ9、10になっている割合が高まると、推奨意向、推奨するっていう気持ちとか愛着度を持っているということについては非常に強まってきているという評価ができるというように考えています。</p> <p>さらにこちらについてはいわゆる関係人口を図るための指標としても使え、特に龍ヶ崎市の愛着であるとか、そういうような指標については、最終的にそういうように思っている人たちが外に出て、龍ヶ崎市というのを広めてくれる・広げてくれるというような意向が強いと判断できますので、関係人口を測る際にも参考になる指標ということですので、前回含め今回、NPSを使った指標を増やしておりますけれども、そういうところで導入をしています。</p> <p>本来ならば設問20あたりも、満足度という指標なのでNPSにするということも可能なのですけれども、先ほど説明しました黄色のマークが多く入っておりまして、こちらについては現行このような聞き方をしている指標なので、指標の取り方を変えてしまうと、現行のプランの評価ができなくなってしまうので、こちらについては導入はしていないということになっております。以上です。</p>

鈴木会長	それでは北川委員お願いいたします。
北川委員	<p>今回少し事前に私も勉強のためにですね、ちょっと量は多かったのですが、13項目程度、質問をメールでお願いいたしまして、昨日回答いただき、本当にありがとうございました。全部説明できないので、その中でも昨日いただいた中で、少し気付いた点をいくつかご質問させていただきたいと思うのですが、まず1番目に回答率、回収率がかなり落ちていると。</p> <p>最近いろんな自治体の市民アンケートでオンラインと併用しているケースが結構出てきていると。私も今回の国勢調査ですね、オンラインでやりました。非常に楽であったという印象です。そういうことで事務手数料コストもかなり安くなるというような成果も出ていますので、今からは難しいかなと思うのですが、次回以降、途中でもう一度何かのアンケート調査をするのであればですね、こういった併用というのもぜひ検討いただきたいというのと、あと1つ年齢別のセグメントの部分なのですが、やはりこれは年代別に回収率にかなりばらつきが出るというのはどこもそうらしいのですが、特にシニアの年齢層の高齢の方は回答率がいいのですが、年齢の若い方がなかなか回収率が悪いということで。これは例えばですね、人口の構成比で、多分、依頼をかけられると思うのですが、前回の実施したアンケートの回収率、年代別の回収率ですね、これを1つ参考にしてですね、今度出す側の数を調整することによって、世代間に乱数が取れるような方法というのは取れないのかなというのがありまして、それをご検討いただきたいと思います。</p> <p>それと後ですね、個別の重点目標について毎回聞かれているということで子育てであるとかですね、市民活動については達成度だけが把握できるという形になっているのですが、問20と重複するかもしれないのですが、例えばもう一歩進んだ問いかけをすることによってその重点施策の達成度というか、市民というのはどこに一体興味を持っているのかというのが、分かるのではないかと。特に今回のSDGsなんかはですね、市民の方は初めて聞くという方もたくさんいらっしゃると思うので、17項目、目標全部を網羅するというのも難しいと思うのですが、その中で例えば10項目ぐらいですね、例えばもう少し分かりやすい言葉に置きかえて、これについてどうですかというような聞き方というのは確かにつくば市の市民調査はそういう形取られていたと思うのですが、それはぜひ検討いただけないかなと思います。</p> <p>あと最後にコロナのところなのですが、実は私東京勤めをしていますので、毎日バスとJR使って通勤しているのですが、コロナ前とですね、今、随分と乗客の数とか、曜日ごとの変化というのは違ってきています。緊急事態宣言を発令された後も違ってきると。一方で、テレワークの影響は大きいのではないかと。週に3日しか行ってないとかですね、週に2回しか行ってないという方もいらっしゃるのです。そうすると、例えば週に2回テレワークすることは、この地元には4回、4日間ですね。週の半分以上この地元にはいらっしゃるということになりますので、これは昼間の人口とかそういった調査が別途あるかと思うのですが、これは施策展開上、押さえておかなきゃいけないポイントではないかなと思いますので、ぜひこのあたりの項目を、将来の中・長期的な目標・計画ですので、ご検討いただければと思います。以上です。</p>
鈴木会長	それでは事務局の方からお願いいたします。
事務局	まずですね、オンラインでの実施というのが1点目かと思うのですが、この部分につきましては本市では市政モニターを活用したアンケートでは既にオンラインで

	<p>実施しているというような状況もありまして、今般の市民アンケート実施の際にも、例えば紙とオンラインの併用とか、全てオンラインでやってみるとか、それも検討した経緯はございます。</p> <p>ただその中で、今回調査対象が10代後半以上という年代的に幅広い年代を想定しておりますので、全ての方がオンラインでの回答が可能なのかという判断がなかなか難しいという部分がございます。また併用した場合には、集計作業の方も非効率な部分も出てきますので、そういったことを考慮しまして今回は全て紙ベースで実施するという事で設計を行っております。</p> <p>ただ、今回4,000人を対象としたアンケートの他に、高校生アンケートとか、大学生アンケートというのを考えており、十分オンラインでの回答も可能な世代かと思われまますので、こちらは全てオンラインで対応するような形でやっていきたいと考えております。</p> <p>2点目で世代別の回答率と回答のばらつきがあるのではないかという話だったかと思えます。これまでの回答の状況を見ても、やはり高齢者の方からの回答が非常に多いと。回答率的に70代が一番高く、若くなるにつれて回答数が減っていくという状況にあることは確かです。均等に集められるように工夫したらどうかというお話だと思うのですが、アンケートなので、基本的に無作為ということで抽出しておりますので、配布数が多い年代、やはり60代、70代は人口ピラミッドで見ても多いところですので、その層に多くアンケートが届き、多く回答が返ってくるという状況でございます。</p> <p>そのあたりの調整ということですが、今回は無作為ということで、そういう調整をしない方向で考えておりますが、ご意見を踏まえまして調整することも考えていきたいと思っております。</p> <p>あとは内容的にもう一步踏み込んだ内容にしてはどうかというところとコロナのところですかね、もうちょっと幅広くというか、もっと深掘りするような質問をしてみてもどうかという話かと思うのですが、やはり今回のこのアンケートは、先ほど説明の中にもありましたように、次期プランのKPIとすることを想定したものと、認知度とか意識、それらを測るための質問で、最上位計画という幅広いものを守備範囲とする計画を作る際のアンケートという性格上、フォローする範囲も非常に多岐にわたりますので、あと回答率の関係もありましてスペースもやはり限られているという状況もございますので、ただのコロナの状況とか、やはりこちらでも把握した上で計画策定につなげるというのが重要になるかと思っておりますので、他の統計資料でありますとか、あと子育てとかのまちづくり、そういった部分では個別計画を作る際のアンケートとして詳しく聞いている部分もありますので、それらを参考に活用しながら、いろいろな情報を入れて策定を進めていきたいと考えています。以上です。</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。 池永委員お願いいたします。</p>
<p>池永委員</p>	<p>池永です。よろしくお願いします。</p> <p>アンケートの回答率についての話だったのですが、やはり若い世代の方は今ちょっとここで、本日は申し上げて良いのか分からないのですが、Powl（ポール）とかQモニターという、アンケートのサイトに行って、アンケートに答えるとポイントがもらえたり、そういうものに慣れていらっしゃる方にとっては、結構分量もあるので「ボランティアでこれをやるか？いや、やらないだろう」と思ってしまいます。私も今、拝見して思ったのですが、例えば5分だったら1ポイント、10分かかるものだった</p>

	<p>ら2ポイントというように、世知辛いことを申し上げるようなのですが、これを無報酬で私の時間を使って送るのかってというのはきっと気持ちとしてあると思います。そして、多分これを返して下さる方っていうのは、もともと市政に興味というか、何かしら関心があったり、何か申し上げてみたいということがある人が送り返してくるとなると、やはり意見に少し偏りが出てしまう。興味のある人が送ってくれるのであれば、興味のない人の意見というのが上がってこないっていう感じがしてしまうんですね。</p> <p>それで少しご褒美的なことを言うのは、匿名で書いてくるものですから、何かを差し上げますっていうのは難しいと思うんですが、今例えばポイント制度とかされてますよねボランティアの。例えばせめてそのシールの何枚かでももらえると、そういったことを少し考えてみたりはされてはいないのでしょうか。</p>
鈴木会長	事務局よろしいでしょうかね。
事務局	<p>アンケートの回収率を上げていくということは、これまでの回答率が減っている状況とか、若い人からの回答がなかなか得られにくいという状況から、考えていかなければならないものだとは思っています。ただ、この市民まちづくりアンケートというのは自分の街を良くするためのアンケートでございますので、その辺はお礼とか、品物とかそういうのが無くても、是非自ら進んで回答していただきたいというのは本心ではあるんですけども、どうしても回答率を高めるための方策というのも我々考えていかなければいけませんので、例えば今回で言えば、先ほどから言っているようにボリュームを抑える。あとは比較的回答しやすいだろうと思われるゴールデンウィーク期間を挟んで実施するということで対応しております。</p> <p>また、まだ検討中ではありますが、抽選で何か高価な物は無理ですけども、何か抽選でお礼の品物を差し上げるということも、もちろん匿名での回答となりますので匿名性を確保した形で応募方法を考えていくことにはなりますが、そういったことも検討しているところではございます。以上です。</p>
鈴木会長	それでは田中委員お願いいたします。
田中副会長	<p>ちょっと細かいことなんですけども。</p> <p>先ほどのSDGsの説明には日本語名を入れておいたほうがいいかなと。国連の持続可能な開発目標とか、あるいはSNSのところに注をつけていましたけれども、あのような形で一言だけ入れた方が良くと思います。</p> <p>それから、意味が分からなかったのですが、第24問なんですけども。</p> <p>よくする活動に取り組んでいる人たちに対する感謝の気持ちって、これ聞いて何になるのかなとちょっとわからなくて、そういう人を知っていれば当然、感謝するし、むしろ知らないっていう人もたくさんいるので、この24の意味が少しわからなかったということです。</p> <p>それから26はすごく大事な設問なんですけども、こういう具体的なことと同時に、今やはり高齢化社会とかあるいは、孤独の問題があるので、その居場所とか、その人との繋がりが欲しいとか、そういったことは結構大事な項目になると思うので、それを是非入れていただきたいと思ひまして。それと関連するんですけども、問の15の14に、住民に人情味やあたたかさが無いという項目がありますけど、これも無いと答えられても、あると答えられても施策としては意味がないと思うので、むしろ人の繋がりが欲しいとか人の繋がりが無いところとか、そういうような聞き方にした方がよろしいのではないのかなと思ひました。少し細かいことなんですけども。</p>

鈴木会長	事務局よりお願いいたします。
事務局	<p>まず先ほど問24の感謝の気持ちの評価といふところなんですが、上からの流れで22、23、24となりまして、シティプロモーションなどに関する指標を採りたいという部分の流れになってます。</p> <p>先ほども申し上げましたとおりNPSは推奨意向ですとか、そういうような気持ちの部分でどれだけ中に秘める思いの量があるのかといふところで、その度合いを測っていくというやり方なっていますので、特にこの感謝の気持ちを聞くという部分については、例えば、市民活動をとらえれば、やらされている市民活動なのか、自分たちが自発的に考えている市民活動なのか、といった部分を評価していきたいというような考えで、聞いています。23の方が直接的な話で、24は、自ら参加するということはやっていないのだけれども、周りでいろいろな活動、例えば環境美化の活動であるとか、そういうようなことをやってくれている人に対して、感謝という表現でお聞きして、どれぐらい、そのような市民活動に自分が積極的に参加するといふところまではいかなくても、その予備群といふのがどれぐらいの割合といふか、状況があるのかといふのを数値で測っていきたい。これが高まっていくと、市民は自ら考えて自分たちで行動していくといふことが、取れてきているといふ評価に、この2問でなっていくといふことで、この2問を設問として入れている部分になります。以上です。</p>
鈴木会長	田中委員、いかがでしょうか。
田中副会長	分かりました。
鈴木会長	では、中村委員お願いいたします。
中村委員	<p>すいません。</p> <p>先ほどからありました回答に偏りがある件なのですけれども、例えば若い世代につきましては、幼稚園であったりとか、保育園や小学校、中学校等にご協力いただきまして、保護者にアンケートをとらせていただくといふことで抽出すべきではないでしょうか。つまり、公平な分類でアンケートをとることが目的ではなくて、そのセグメントにおいてどのような傾向が見られるかを抽出することが目的だと思いますので、その意見を持つ年代からのアンケートが取れなかったら、その結果って得られないと思うのですよね。なので、公平に4,000人ランダムで選ぶことにはあまり注力しないでもいいのではないのでしょうか。</p>
鈴木会長	事務局いかがでしょうか。
事務局	<p>アンケートという性格上、特定の世代を多く抽出するといふのも、無作為抽出で統計的に判断するといふのが基準になるかと思えます。あとは先ほどから申し上げますとおり、若者世代を対象とした、オンラインを使ったアンケートでありますとか、あと新たな取組として、例えば子育て支援センターの利用者の皆様とか、そういった所にお邪魔して直接インタビューするとか、アンケートだけでは意見を伺うことが難しい世代とか、オンラインを使ったミーティングとか、そういうものを別途行っていこうと考えておりますので、意見聴取はアンケートだけではなくて、違う方法も使って今回は若者世代、子育て世代からの声を色々伺っていききたいといふことで考えています。</p>
鈴木会長	よろしいでしょうか。時間もちょっと差し迫ってきておりますのでおそらく今回説明を改めて事務局から伺って、多くのご質問等があるかと思えます。

	<p>それに関しましては、また時間はあまりありませんが、もしご意見ございましたら事務局の方にメールを差し上げるということでご理解いただけますでしょうか。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、もう時間も差し迫ってきておりますので、議題としていたしましてはここまでとなりますが事務局よりいくつか連絡等ございますのでそちらのほうお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それではご審議の方ありがとうございました。</p> <p>事務局の方から事務連絡でございます。</p> <p>(1) 次回日程について 令和3年8月下旬予定。後日、日程調整。</p> <p>(2) 次回審議会内容について 現行プラン評価 アンケート分析結果 現行プラン延長素案の審議 など</p> <p>(3) ワークショップ、市民懇談会への案内について 日程が決まり次第、委員へ連絡</p>
<p>鈴木会長</p>	<p>ありがとうございます。時間の無い中で皆様に十分なご議論いただけなかったかと議長として反省しておりますが、大変申し訳ございませんが、今日の説明等を伺って、時間も無い中ですが、できれば今月中に何か質問等ございましたら事務局の方にメールでお問い合わせいただければと思います。</p> <p>委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございました。</p> <p>これもちまして本日の審議会を終了させていただきます。</p> <p>皆様ありがとうございます、お疲れ様でした。</p>
<p style="text-align: center;">令和 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">委員 長 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p> <p style="text-align: right;">議事録署名人 _____</p>	